

【概要】令和5年度 府立学校の業務改善等の取組状況

令和5年度の取組状況

令和5年度に各府立学校で実施している業務改善の取組を項目別に集計
(前年度からの継続した取組を含む)

1 ICTの有効活用

(1) 会議や情報共有の合理化 **100%(60校)**

- ・教職員間の打ち合わせ等の効率化
- ・会議資料のペーパーレス化、時間縮減

(2) 調査・集計等の合理化 **約97%(58校)**

(3) 学習指導改善・保護者連絡等の合理化 **約97%(58校)**

2 行事の工夫・改善等 **100%(60校)**

- ・体育祭や宿泊行事等、学校行事の実施方法の工夫や内容の重点化等

3 部活動の運営改善 **約82%(49校)**

- ・部活動の運営工夫等
- ・部活動指導指針に定める活動時間厳守の徹底

4 その他

- ・ノー残業デー、ノー残業ウィークの積極的な設定
- ・生徒の最終下校時間の繰り上げ

等

特に効果のあった取組の紹介

1 ICTの有効活用

課題：始業前の時間帯に、保護者からの欠席連絡への対応に追われていた。

- ➡ **取組** 保護者連絡アプリを導入したことで電話対応が減り、負担軽減につながった。
効果

2 行事の工夫・改善等

課題：体育祭について、雨天時対応準備が煩雑であり、準備担当教員の負担になっていた。

- ➡ **取組** 府立体育館を借り切って屋内で実施することで、天候に左右されない運営が可能とな
効果 り、準備・運営に従事する教職員の負担軽減につながった。

3 部活動の運営改善

課題：休日や、長時間の活動が教員にとって大きな負担となっていた。

- ➡ **取組** 月間活動計画を保護者宛てお知らせメールで配信することとした。そのため、計画を改
効果 めて見直し、適正日数、時間に修正され働き方改革を推進することができた。

4 その他

課題：19時以降に退勤する職員が多く、長時間勤務者が減らない状況であった。

- ➡ **取組** 月1回の「早よ帰ろうweek」を設定し、この週に一度は18時までに帰ることを目標とした。
効果 日を限定するよりも週にした方が達成率が上がった。

課題：担任が、成績処理などにより特に学期末多忙な状況であった。

- ➡ **取組** 通知表の所見を廃止したことで、成績処理や学期末の準備に集中することができ、遅くまで残らないようになった。

Pickup !

アプリの活用による事務処理等の負担軽減

○課題：各種届の集計に多くの時間を要していた

年休届などを各教職員が紙媒体で提出しており、それを管理職が手入力集計していたため多くの時間を要し、長時間勤務の大きな要因となっていた。

○取組効果：アプリ導入により効率的な事務処理を実現！

届の入力をアプリ化（Microsoft Teamsを活用）し、届出時の入力管理職も瞬時に確認ができ、手入力作業を減らすことができた。

更に、本日の動静について、各教職員がアプリ上で確認することや、急な交通遮断などで出勤できない場合でもアプリから連絡可能となり、管理職がすぐに確認でき、速やかな調整も可能となった。

生徒下校時刻の繰り上げによる働き方への意識改革

○課題：長時間勤務者が減らない

依然として20時以降に退勤する教職員が減らないことが問題となっていた。

○取組効果：下校時刻を繰り上げて、退勤時間が早まった！

生徒の最終下校時刻を通年で19時30分から19時に、12月～2月は18時30分へ繰り上げた結果、全体的に教職員の退勤時刻が早まり、長時間勤務状況が少し改善した。

教職員それぞれが勤務時間を意識しながら働くことで、ワークライフバランスの一助となっている。